

# 事業評価シート（平成24年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館特別展事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 館事業参加市民】		
目的・目標		事業の概要	
学芸員の研究成果が特別展で公開され、市民の知的共有財産となっています。		学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数			単位	日
	説明・算定式	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館文化祭の開催日数				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	150	150	150	160	
	実績	162	161	154		
活動指標②	指標名	特別展関連事業開催日数			単位	日
	説明・算定式	期間中の講演会・見学会等				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	20	20	20	25	
	実績	27	36	27		
成果指標①	指標名	特別展開催期間中の入館者数			単位	人
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	38000	38000	38000	38600	
	実績	32939	40612	43062		
成果指標②	指標名	図録売上部数			単位	部
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	550	550	550	630	
	実績	822	886	813		
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成24年度の主な取組と成果						
夏期特別展「レンズが見た平塚～あの日、あの場所、あの暮らし～」、秋期特別展「暮らしの今昔－電気・ガス・水道がなかった頃の道具たち」、春期特別展「天の川銀河へようこそ」を開催しました。夏期は市制80周年を記念して公募資料を含めて開催、秋期は学校の学習テーマにも応える内容、春期は平塚のシンボルの一つでもある天の川をテーマに選び、多数の来館利用を得ました。「博物館文化祭」では博物館に集う市民が地域の自然・歴史情報を集積した活動成果を展示紹介しました。						
平成24年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	特別展は博物館の調査研究、市民との協働調査の成果を周知する機能を発揮しています。入場者数、図録販売数から、24年度の事業内容が高く評価され、またニーズにも合致したことが明らかです。	● 高 ○ 低
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	特別展は、見たい、知りたい、という市民の知的要求に、実調査に基づいた高い水準で応えています。また刊行図録は限られた展示スペースを補うとともに、高度な情報を提供して、市民に利用されています。	● 高 ○ 低
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>□ 受益者負担、補助額</li> <li>□ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	調査研究、とくに市民との協働による調査成果を踏まえつつ、展示や各種講座等を行うことは、地域の人とともに活動し、文化資産としての物や情報を蓄積する、地域博物館の使命と合致しています。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>□ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	外注部分を館内製作に切り替える等制作プロセスを見直し、制作経費の軽減に努めました。調査から制作まで、プロセス全般に市民が学芸員とともに参加しており、効率化が有意義に行われています。	● 高 ○ 中 ○ 低
<b>今後に向けた課題の分析</b>				
展示制作にあたっては恒常的にコスト削減を図る必要があり、そのための展示手法の研究を継続する必要があります。また、今後一層の内容充実を図るとともに、市民との協働や他の機関等との連携を進めることで新たな地域情報を発信しながら、展示のテーマや内容のバリエーションを広げ、利用者層のニーズへの対応を図る必要があります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
事業内容		地質部門等の特別展の開催	生物部門等の特別展の開催	民俗部門等の特別展の開催	考古部門等の特別展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	1,234	1,906	1,762	1,580
	一般財源	5,079	4,190	4,204	4,640
事業費 (A)		6,313	6,096	5,966	6,220
執行率 (%)		98.87	96.21	95.87	
内訳	職員 (人)	0.95	1.20	1.07	1.35
	再任用 (人)	0.00	0.10	0.10	0.40
人件費 (B)		7,847	10,061	8,917	12,091
フルコスト (A+B)		14,160	16,157	14,883	18,311

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成26年度の取組方針</b>	制作コストはすでに大きく節減された状況にあります。そのような中でも展示手法の工夫等により、内容の一層の充実を目指します。同時に、利用者層や実施目的を意識しながら多彩な特別展と関連行事を実施することにより、利用者層の拡大とニーズへの適切な対応を図ります。
<b>課長コメント</b>	博物館の特別展事業は、生涯学習の機会を求める市民に広くそれを提供すると同時に、学んだ市民が博物館と協働で調査した成果を公表する機会にもなっています。さらなる充実、発展を目指します。